

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2019年6月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2019年6月10日～6月28日
- 調査対象 200社
- 回答企業 123社
- 回収率 61.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の6月の状況を見ると業況DIは、前月より3.3ポイント悪化の▲16.3となった。

2017年9月以来22ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲15.4、当月に比べ0.9ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2019年7月～ 9月
業況	▲24.5	▲25.9	▲21.6	▲18.9	▲13.0	▲16.3	▲15.4
売上	▲21.8	▲27.9	▲17.1	▲6.1	▲10.4	▲11.4	▲4.1
採算	▲23.6	▲26.0	▲24.3	▲15.5	▲13.1	▲15.5	▲13.0
仕入単価	▲36.4	▲41.4	▲43.2	▲47.4	▲40.9	▲44.7	▲36.6
販売単価	-	-	-	6.0	16.5	1.6	2.5
従業員	27.5	29.8	33.3	35.4	33.0	39.1	39.0
資金繰り	▲10.0	▲8.7	▲7.2	▲9.5	▲4.3	▲8.1	▲10.5

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2019年7月～ 9月
建設	▲34.7	▲40.7	▲18.5	▲17.8	▲11.1	▲13.8	▲3.5
製造	▲32.0	▲32.0	▲24.2	▲25.8	▲10.0	▲9.4	▲15.6
卸売	▲26.1	▲15.0	▲22.8	▲8.7	0.0	▲15.4	▲9.1
小売	▲16.7	▲13.3	▲26.6	▲20.0	▲31.3	▲25.0	▲25.0
サービス	▲5.5	▲17.6	▲16.6	▲21.1	▲20.0	▲25.0	▲20.0

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・下請け業者の不足、業者不足に加え働き方改革による下請け施工単価の上昇。設計価格との乖離による資材価格の高騰。(総合工事) ・自社技術職員の不足、協力業者技能職の不足。(設備その他) ・社会の構造的変化が進んでいるが、それに対していかに変化できるかが勝負どころである。(設備その他) ・価格競争の激化から、市内での営業に苦慮している状況。(建築)
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上は増加しているが、得意先の人手不足の表れと思われるが、少量多品種（手間のかかる商品）の要望が増加している。人件費の増加により、採算の上昇につながらない。(食料品) ・原材料の高騰、印刷市場の減少。クライアントの販促予算の削減等。(印刷・出版) ・10月の消費税増税の影響が心配である。(金属窯業他)
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・現場作業員の確保。(機械鋼材) ・売上に関していえば好調ではあるが、同比例するほど利益転化できていない。(機械鋼材) ・従業員の適正人員の不足状態が長期間解消されておらず、根本的に見直しが必要となっている。(その他) ・仕入単価の上昇。(その他)
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・来店客数が前年より少ない。天候にも左右され、気温が上がらないと夏物商品の動きも悪くなる。ネットでは春夏商品のセールが始まっている。(衣服見回品) ・出荷状況の動向。(食料品)
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足は大きな問題。仕事量は増加し続けているが、運転手、作業員不足で困っている。全道的にも同様の状況。(理美容・クリーニング) ・昨年の震災以来、インバウンドの単価ダウンが見受けられる。今シーズンに入っても震災の影響で単価に影響している。(ホテル・旅館) ・4月より完全週休二日制を導入したが、現場作業の日程調整及び人員配置等に頭を悩ませている。特に冬場は雪の影響もあり、ますます調整が難しくなる。(その他) ・売上はほぼ横ばいの状況で、納入単価が上がってきている。なかなか利益にならない。(飲食) ・いい人材がいない、育たない。(整備業) ・夏のボーナス支給については減もしくは支給しない。(運送)

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI18.5 ポイント改善、採算 DI13.8 ポイント悪化、仕入単価 DI14.7 ポイント悪化、販売単価 DI14.8 ポイント悪化、資金 DI7.4 ポイント悪化、従業員 DI3.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 2.7 ポイント悪化となった。業種別では、設備・その他、建築業横ばい、総合工事 7 ポイント悪化となった。自社技術職員の不足、協力業者技能職の不足との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI10.2 ポイント改善、採算 DI7.9 ポイント改善、仕入単価 DI6.9 ポイント改善、販売単価 DI20.7 ポイント悪化、資金 DI6.7 ポイント改善、従業員 DI5.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 0.6 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 2 ポイント悪化、印刷・出版、家具・木材、金属窯業他横ばいとなった。10 月の消費税増税の影響が心配であるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI13.0 ポイント悪化、採算 DI7.7 ポイント悪化、仕入単価 DI18.9 ポイント悪化、販売単価 DI22.8 ポイント悪化、資金 DI7.0 ポイント悪化、従業員 DI120.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 15.4 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等横ばい、食料品 4 ポイント、機械鋼材 50 ポイント、その他 13 ポイント悪化となった。仕入れ単価の上昇、現場作業員の確保が急務との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI25.0 ポイント悪化、採算 DI6.3 ポイント改善、仕入単価 DI12.4 ポイント改善、販売単価 DI12.5 ポイント悪化、資金 DI 横ばい、従業員 DI6.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.3 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、食料品、自動車横ばい、その他 25 ポイント改善となった。従業員不足が解消されないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI15.0 ポイント悪化、採算 DI5.0 ポイント悪化、仕入単価 DI 横ばい、販売単価 DI 横ばい、資金 DI15.0 ポイント悪化、従業員 DI5.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.0 ポイント悪化となった。業種別では、整備業 67 ポイント改善、理美容・クリーニング、運送横ばい、ホテル・旅館 20 ポイント、その他 25 ポイント、飲食 25 ポイント悪化となった。店内でよく使用するキッチンペーパー等の消耗品の値上がりが激しいとの声も寄せられている。</p>